

物理化学2（物質のエネルギーと平衡）

責任者・コーディネーター	構造生物薬学分野 阪本 泰光 准教授		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 18時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

全ての薬剤は分子の集合体であり、環境に応じてその状態を変化させる。物理化学2では、物質の集合体としての巨視的な状態を理解するため、熱力学の基礎を学び、気体や液体の自発的な変化の原理を理解する。分子の集合体である気体や液体などの状態を理解するための、熱力学に関する基本的知識と技能を修得する。また気体や液体などの自発的な変化の方向と、変化の量を予測するための基本的知識と技能を修得する。

・教育成果（アウトカム）

医薬品を含む全ての物質を構成する分子の物理化学的性質を基に、統計熱力学の基礎を身につけることで、物質の集合体としての巨視的な性質を理解し、状態および相互変換過程の解析を修得する。理想気体の状態方程式からエンタルピー、エントロピー、ギブズエネルギー、化学ポテンシャルへと展開し、統計熱力学の法則の理解を深める。更に、これらを基に相平衡と物理平衡を理解する。
(ディプロマ・ポリシー：7)

・到達目標（SBO）

1. 気体の分子運動について総合的に説明できる。
2. 様々なエネルギーの相互変換について式を用いて説明できる。
3. 自発的な変化を支配している原理について説明できる。
4. 相平衡や相転移の理解に基づき、相図や状態図を具体的な問題に適用できる。
5. 代表的な物理平衡の観測データから、平衡定数を計算することができる。

・講義日程

(矢) 東 102 1-B 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/5	水	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	気体の分子運動 1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。 2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。 3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。

9/12	水	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	仕事と熱 1. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。 2. 状態関数の種類と特徴について説明できる。 3. 仕事および熱の概念を説明できる。
9/27	木	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	熱力学第一法則 1. 熱力学第一法則を説明できる。
10/3	水	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	エンタルピー 1. エンタルピーについて説明できる。 2. 物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。
10/9	火	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	エントロピーと熱力学第二法則 1. エントロピーについて説明できる。 2. 熱力学第二法則を説明できる。 3. 物理変化、化学変化に伴うエンタルピー変化を計算できる。
10/19	金	3	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	熱力学第三法則 1. 熱力学第三法則を説明できる。
10/23	火	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	総合実力確認テスト
11/8	木	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	自由エネルギー 1. ギブズエネルギーについて説明できる。
11/28	水	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	化学ポテンシャル 1. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
12/7	金	3	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	化学平衡 1. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
12/12	水	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	相平衡と相律 1. 相平衡について説明できる。
12/19	水	4	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	状態図 1. 状態図について説明できる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズ II-2「物理系薬学 I. 物質 の物理的性質」	日本薬学会 編	東京化学同人	2015
参	物理化学	石田 寿昌	化学同人	2007
参	新化学 化学基礎+化学 チャ ート式	野村 祐次郎、辰巳 敬、本 間 善夫	数研出版	2014
参	わかりやすい物理化学	中村 和郎	廣川書店	2010
参	ライフサイエンスの物理化学 演習	中村 和郎	三共出版	2009
参	物理 傾向と対策/勉強法	中村 和郎	三共出版	2015
参	Innovated 物理化学大義：事 象と理論の融合	青木 宏光、長田 俊治、橋 本 直文、三輪 嘉尚	京都廣川書店	2009

・成績評価方法

定期試験（80%）と実力確認テスト（20%）で総合的に評価する。
実力確認テストを欠席した場合には、定期試験の結果を 9/8 倍として成績評価を行う。

・特記事項・その他

毎回授業で取り上げるクイズ・ミニテストの配布プリントを使って復習すること。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。
学生参加型講義を実施するために、スマートフォン等を利用したクイズを講義中に行う。
指示があった場合にはインターネットに接続できるように準備をしておくこと。